

令和4年度 学校評価報告書

| | |
|-----|------------|
| 学校名 | 三田市立上野台中学校 |
|-----|------------|

1 学校教育目標

夢や未来を創造し、確かな学力と豊かな心でたくましく生き抜く生徒の育成

2 今年度の学校重点目標

- (1)「学力」の向上に向けた授業改善の工夫(充実した授業、質の高い授業)
- (2)「対人関係能力」の育成(人権尊重、生徒指導、開かれた学校)
- (3)職場環境の整備[生徒に向き合う時間の確保]
(協働して支え合う<<チーム上野台>>、勤務時間の適正化)

3 総合的な自己評価

新型コロナウイルスの感染拡大防止対策が徐々に緩和され、以前の教育活動に戻りつつある中、生徒たちはできることを少しずつ広げていながら、日々がんばって学校生活を送っている。そのがんばりが「学校生活アンケート」の評価に反映し、概ね高い数値を示している。生徒による評価では、自分の意見を適切に言える雰囲気を感じていることが分かり、クラスや学校の雰囲気づくりの大切さを実感した。また、生徒たちが主体的な学びを進めていけるよう教育環境の整備と丁寧な対応を今後も心がけたい。一方、保護者による評価では、学力向上の取組や部活動の充実、生徒の授業以外での自主的な学習の取組を望む声が一定程度あるが、いずれも肯定的な評価の割合が昨年度と比べ増加している。今後も教育課題のひとつと捉え、充実を図りたい。

4 総合的な学校関係者評価

コロナ禍において、教職員が少人数の中での行事や、少ない時間での業務は大変であるが、目標に対して概ね良好の評価が示されている。この調子で頑張ってもらいたい。応援している。部活動の充実において、市によるスクールタクシーの配置はありがたい。しかし、生徒や保護者が望む部活動種目は、小規模校においては限界がある。更に来年度はクラス数の減少に伴い教職員数が減少する。生徒数及び教職員数に課題は残る。コミュニティ・スクールと共に、学校が活性化する活動(挨拶運動や部活動支援等)を考えていくことが必要。今後も上野台中学校を卒業したことに自信が持てるよう、指導してもらいたい。

5 評価結果

| 自己評価 | | | | 学校関係者評価 |
|---------------|---|--|--|--|
| 分野・領域 | 評価項目(取組内容) | 評価結果及び分析 | 改善の方策 | 学校関係者評価委員会の意見 |
| 教育課程 学習指導 | 基礎基本の定着を図るとともに、生徒一人ひとりが確かな学力を身につけられる「分かる・楽しい・伸びる授業」の創造 | 分かる授業を基盤として、基礎学力の定着は進みつつある。今後は、学力向上に向けた意識づけが必要。 | 個々に目標を持って、主体的に学んでいけるよう学習指導を進めていく。スモールステップで実現可能な目標が持てるようアドバイスをする。 | 学校内での授業態度や学習意欲は概ね良好。家庭・地域での学習意欲向上に課題。生徒も保護者も成果が実感できる学習方法の指導が必要。 |
| | GIGAスクール構想によるICTを活用した効率的・効果的な学習指導の実践 | タブレットPCを使用することに、慣れつつある。ドリルパークの活用も進めている。 | タブレットPCを使用することにこだわりすぎず、アナログとデジタルの効果的な併用について検証していく。 | 子供たちがPCを使いこなせるようになることは不可欠。資格試験は記述多く、書く練習も大事。タブレットPCだけでなくアナログも大事。 |
| 生徒指導 いじめ防止 | 教育相談等の充実を図り、多様性を尊重した共感的生徒理解に基づく生徒指導や生徒個々の発達に応じた支援 | 教育相談だけでなく、日々の様子からも生徒理解に努め、適切な支援につなげている。 | 生徒一人一人の頑張りを認めながら、特別支援教育の視点を大事にして生徒の特性に応じた指導・支援の工夫を行っていく。 | 不登校生の対応は本当に難しい。学校には限界もあるが、これからは根気よく、丁寧な対応をお願いしたい。子供たちへは、学校だけでなく地域でもあたたかな見守りが必要。 |
| | 本校「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ問題に対して迅速かつ組織的な対応 | 教育相談や毎月の「こころのアンケート」等での情報を共有し、早期対応に努めている。 | 未然防止に向けて、いじめを許さない個人・集団づくりを継続していく。積極的な声かけ等から悩みを探る。 | 「こころのアンケート」の取組が良い。加えて、様子を見て、話を聞いて、寄り添っていくことを願う。 |
| 開かれた 学校づくり | 学校園所連携の推進により、校区の『みんなで育てよう』をもとに、生徒が安心して主体的に学べる学習環境づくり | 組織的な連携体制を継続。特別支援、キャリア、英語教育等の交流を進めている。 | 中学校区の「めざす子ども像」を周知し、連携の充実を図る。 | 性格にもよるが、みんなが元気に挨拶できるようになればと思う。二言挨拶もコミュニケーションがとりやすくなる。トライやるの事前学習で地域の方の力を活用できる。 |
| | 積極的に学校の情報を地域や家庭に発信し、互いに連携を深めて可能な限りの多様な教育力を活用したより良い教育環境づくり | 学校だよりを地域施設等で掲示。小学6年生や保護者へも配布し、発信している。保護者ボランティアも協力。 | 「虹プロジェクト」の地域との連携を整理して計画的に進めていく。コミュニティスクールを活用し、学校での課題を地域と共に考えていく。 | 「虹プロジェクト」は校風づくりとして継続を。学校だより地域掲示はリアルタイムで、寺子屋学習に活用。情報発信で個人情報等のセキュリティの線引きが重要。不審者事件があり学校の安全管理とのバランスが難しい。 |
| 研修・ 資質向上 | 教職員一人ひとりが実践的指導力の向上を図れるように、学習指導の工夫や授業改善を意識した研修体制の充実 | 公開授業を実施して授業改善を図っている。授業の様子も適宜情報交流している。 | テーマを持って授業改善を進めていけるよう、校内での研修を充実させていく。 | 取り巻く環境の変化に、今後も対応してほしい。地域との人的交流も含めて、農業等の地域産業について、今後研修していくのはどうか。 |
| | 人権意識や危機管理意識の向上のもと、様々な教育課題への組織的な対応による家庭や地域に信頼される学校づくり | 各種委員会等で情報共有を図り、SCやSSW等とも連携し、より丁寧な対応ができるよう努めている。 | 教師自身の意識を更に高められるよう組織的な体制を整え、適宜研修を行っていく。引き続き、新型コロナ等の感染症対策も意識しておく。 | 人権意識を教育課題として教職員一人一人が意識を。設備等も含め、安全対策(セキュリティ向上)が大事。誰でも校内に入れる状況は改善すべき。 |